

2014年

第20回吃音ショートコース

2014年10月11日～13日

ナラティヴ・アプローチ

「ナラティヴ」は、「物語」「物語る」の意味で、「ナラティヴ・アプローチ」とは、一言で言うと、「困難や、問題をかかえる人が物語るストーリーこそが、その人の人生を形作っていると考え、ストーリーの改訂のために、より好ましい素材を一緒に探し、新しいストーリーを共同で練り上げていくアプローチ」です。

吃音否定の物語は、その人の人生に大きな影響を与えます。吃音について、自分自身について語るストーリーが、マイナスの影響を与えているとしたら、それを別の物語に語り直す必要があります。私たちは、親や、教師、友達など周りから影響を受け、「どもりは、劣った、恥ずかしいものだ」との吃音についての物語を自ら語り、社会の、「吃音は本人の努力で治る」との言説にも影響され、体験をその物語にそって強化し、吃音の悩みにとらわれていきました。同じように悩む仲間と出会い、いろんなことを勉強して、吃音の否定的な物語から、「どもっていても、豊かな人生は送れる」との物語に変えていくことで、生きやすくなっていきました。

— どもる子どもの話をよく聞き、感情や気持ちを確認し、吃音から起こる問題の影響を整理し、それをその人と問題を切り離し、外在化し、自分が取り組める問題だととらえ直します。吃音にマイナスの影響を受けていない、できていることを見つけ、相談しながら、今後どうしたいかを考えます。吃音から影響を受けてきたストーリーを、吃音に影響されない、別のストーリーに変えていきます—

吃音に当てはめてこう書くと、とても難しく感じられますが、セルフヘルプグループの大阪吃音教室で実際にしてきたことで、ことばの教室でも、「どもりカルタ」「言語関係図」「どもりキャラクター」などで、吃音と向き合ってきた実践です。これまでの実践を、ナラティヴ・アプローチの考え方で整理し、今後の吃音の取り組みに生かします。

日時 2014年10月11・12・13日（土・日・祝日）

場所 アクティプラザ琵琶 〒520-1503 滋賀県高島市新旭町深溝 TEL 0740-25-7111

主催 日本吃音臨床研究会

〒572-0850 寝屋川市打上高塚町1-2-1526 TEL/FAX 072-820-8244

参加費 一般参加者 33,000円 日本吃音臨床研究会会員 31,000円
(研修費、2泊3日の宿泊・食事を含む全ての費用)

問い合わせ先 日本吃音臨床研究会

〒572-0850 寝屋川市打上高塚町1-2-1526 TEL/FAX 072-820-8244

プログラム案 (①～⑦の内容は変更の可能性あり)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
1 1 日 (土)							受付	①	夕食				②				コミュニティアワー
1 2 日 (日)	朝食		③		昼食			④		夕食			⑤				コミュニティアワー
1 3 日 (祝)	朝食		⑥		昼食		⑦										

1 1 日 (土)

① 出会いの広場…新しく出会う人が互いに知り合い、リラックスできるように、からだを動かしたり、ゲームをしたりする、人間関係づくりのウォーミングアップ。

② 発表の広場…どもる人本人は自分の体験を、どもる子どもの親は子どもとのかかわりでの体験を、ことばの教室担当者やスピーチセラピストの方は実践を、研究者の方は研究を発表し、参加者全員で分かち合う。ことば文学賞の発表も行います。

コミュニティアワー (交流会) … 参加自由の交流会。

1 2 日 (日)

③ ナラティブ・アプローチとは…国重浩一さん

④ ナラティブ・アプローチの実際…国重浩一さん

⑤ ナラティブ・アプローチを活かす…国重浩一さん

コミュニティアワー (交流会) … 参加自由の交流会。

1 3 日 (祝)

⑥ 対談…国重浩一さんと伊藤伸二が、前日のお話と実習をふまえて、ナラティブ・アプローチを、どもる子どもの指導やどもる人が自分らしく生きるために、またセルフヘルプグループなどの活動にどう生かすことができるかを対談する。フロアーからの意見も拾いながら、参加者全員で深める。

⑦ みんなで語ろうティーチイン…参加者みんなで、吃音ショートコースを振り返る。

ナラティブ・アプローチ

冒険物語の主人公は、前半でいろいろな苦境に陥り、さまざまな問題を抱えています。問題は、本人がつくり出したように語られたり、誰かからもたらされたかのように描かれる場合もあります。先に進めない状況に追い込まれたときに物語の起承転結の「転」となる転機が訪れます。主人公の力や、周りの人の力でももたらされますが、偶然の産物です。主人公はその転機を足がかりに、何とか方策を探し出し、苦境を抜け出していきます。

問題を抱えた状況で、人が語るその人自身の物語は、苦境の中にある物語です。その問題で進むべき道が閉ざされ、自分自身のふがいなさが際立ち、可能性のある未来がまだ見えず、その苦境に辿り着いた「結（末）」の筋書きに沿ったストーリーが展開されてしまい、結末である苦境に向かっていくように語られています。

将来を予言する、自分自身のふがいなさや無能さが主要な主題になる物語は、今後も継続するものとして提示されます。「自分は、こんなこともできなかった」と自らの視点で語られ、「ヤツは、こんなこともしたし、あんなこともしたんだから」と第三者からの視点でも語られ、「将来も同じようなものだろう」と暗示しています。私たちに、将来的においても可能性がないことを提示しているのです。

「起」である原因によってもたらされたストーリーは、非常に強力で、それ以外の見方を許しません。ところが、「起」である原因は、複数の中から何らかの選択を経て語られています。ほかにも原因があったかもしれないが、ストーリーを語る筋書きに合わなかったり、どう関連づければいいのか判断できないものは省かれてしまいます。

ナラティブ・セラピーでは、特定のストーリーには、ストーリーからは漏れている、見逃されている側面が必ずあることを強調します。自分で人生を乗り切れない袋小路に入ってしまった人が語るストーリーは、その人の無能さや無力さが主題となりがちです。その人が持つほかの能力、資質、資源は、ストーリーラインからは外され、その人の「人となり」のごく狭い部分に焦点が当てられた物語が、その人の「真実」を私たちに訴えかけてきます。物語が、幾度も語られることで、「真実味」を増し、強化され、強い影響力を発揮するようになったストーリーを「支配的な物語（ドミナント・ストーリー）」と呼びます。この物語で覆い隠されてしまった挿話を、ナラティブ・セラピーでは探し求めます。

「あなたにもいいところがある」との押しつけではなく、この人が語る話の中に、何か語られていないものがあると「探索」します。何らかの「結末」から語られる筋書きに沿った物語ではなく、別のヴァージョンの物語（オルタナティブ・ストーリー）を、相談に来た人と一緒に探索し、「アナザー・ストーリー」に焦点を当てていきます。

私たちは、その人の苦境にいることが「結（末）」となるストーリーではなく、それをまだ「起」にすぎないストーリーと受け取り、「承」や「転」をもたらししてくれる伏線が必ず存在するという、信念を持ちます。人が抱える困難な問題について、ある種の専門的な知は、そこにいかに可能性がないかを私たちに伝えてしまいますが、そのような「知」に対しても、ナラティブ・セラピーはあえて異を唱えていきます。可能性をもたらししてくれる考え方を採用することこそが、より可能性が生まれる土壌を提供してくれるのです。

面談という出会いの場での、言葉の力と役割

「さまざまな相談心理療法という面談の場面では、相談を受ける人と相談をする人の出会いがあります。この出会いの場で、言葉がやりとりされ、会話となっていきます。相手にどのように言葉をかけていくか、どのような言葉を返していくかということとは、相談を受ける私たちにとって、まさしく面談の中心となる部分であり、もっとも気を遣うところです。それは、私たちが選択する言葉のひとつひとつが、その場の関係性や将来の方向性に影響を及ぼすからです」

『ナラティブ・セラピーの会話術』より

〈講師〉国重 浩一（くにしげ こういち）

ニュージーランド国立ワイカト大学カウンセリング大学院修了。ニュージーランド・カウンセラー協会会員。日本臨床心理士。鹿児島メンタルサポート研究所研究員、鹿児島県のスクールカウンセラーを経験。東日本大震災の時は、被災地に入り、スクールカウンセラーとして、子どもたちの支援にあたる。

著書・訳書 『ナラティブセラピーの会話術』（金子書房）、『ナラティブ・アプローチの理論から実践までー希望を掘り当てる考古学』『ナラティブ・メディエーションー調停・仲裁・対立解決への新しいアプローチ』『心理的援助職のためのスーパービジョンー効果的なスーパービジョンの受け方から、良きスーパーバイザーになるまで』（北大路書房）など。

◇研修会では、ナラティブ・セラピーの概要、その進め方について「なぜそうするのか?」という視点から、できるだけ専門用語を使うことなく説明していきます。そして、ナラティブ・セラピーのイメージをつかんでもらい、もっと身近なものとして感じてもらえるように研修会を進めたいと考えております。「ナラティブ=語り」という理解からもう少し踏み込んでナラティブ・セラピーに取り組んでいくきっかけになれば幸いです。

（吃音ショートコース後に開かれる、鹿児島での研修会を案内する国重さんのブログより）

参加申し込み方法

宿舍予約の関係で、9月末日を申し込み締切とします。

9月末日までに、はがきかFAXで請求いただければ、所定の申し込みはがきと参加費送金用の振替用紙をお送りします。定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。申し込みはがきと同時に、振替用紙でご送金下さい。全日程参加を原則として参加費を設定していますが、部分参加の方は参加費を事務局までお問い合わせ下さい。

発表の広場での発表者募集

成人のどもる人は自分の体験を、ことばの教室の担当者や臨床家の方は実践を、研究者の方は研究報告を、どもる子どもをもつ親の方は、子どもとのかかわりから得た体験を、発表して下さい。毎年、いろいろな人の人生に触れるすばらしい時間になっています。発表をご希望の方は、参加申し込みのときに、その旨お知らせ下さい。追って、発表の広場の要項をお送り致します。発表の概要を事前にお出しいただくことになっています。